

平成 29 年度

病害虫発生予察情報 第 14 号

8 月 月 報

北海道病害虫防除所 平成 29 年 9 月 14 日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

－『並温・少雨・寡照』上・中旬はオホーツク海高気圧が居座る－

この期間の天気は、上旬と中旬はオホーツク海高気圧からの冷たく湿った気流の影響で、オホーツク海側と太平洋側を中心に曇りや霧雨の日が多く、気温も全道的に平年を下回る日が多かったが、日本海側では高気圧の張り出しの中となつて晴れた日が多かった。下旬の天気は短い周期で変わった。気温は中旬は平年よりかなり低かったが、月平均気温は平年並だった。降水量は上旬は平年より少なく、月降水量も少なかった。日照時間は中旬は平年より少なく、月間日照時間も少なかった。

上旬：1日は低気圧を含む気圧の谷の影響で雨の降った所が多く、大雨となった所もあったが、日本海側や太平洋側西部では概ね晴れた。日降水量は美瑛町原野5線で59.5mmなど。2～4日は高気圧の張り出しの中となつて日本海側では晴れたが、オホーツク海側や太平洋側では湿った気流の影響により曇りで雨の降った所もあった。5日は気圧の谷が通過して雨の降った所が多かったが、次第に高気圧に覆われて日本海側を中心に晴れた。6～8日は高気圧の張り出しの中となつて広い範囲で晴れたが、オホーツク海側や太平洋側では湿った気流の影響で雨の降った所があった。9日は気圧の谷や湿った気流の影響で雨の降った所が多かった。10日は気圧の谷の影響でオホーツク海側や太平洋側を中心に雨の降った所が多かったが、日本海側では晴れた所もあった。

中旬：11日は気圧の谷の影響により広い範囲で雨が降った。12日は上空に寒気を伴った気圧の谷の影響で大気の状態が不安定となり全道的に雨が降った。日降水量は幌加内町朱鞠内で74.5mmなど。13～14日は気圧の谷の影響により広い範囲で雨が降った。15日は気圧の谷の影響により曇りで雨の降った所があったが、日本海側や太平洋側西部では晴れた所もあった。16日は高気圧の張り出しの中となつて晴れた所が多かった。17日は高気圧の張り出しの中となつて日本海側北部やオホーツク海側で晴れたが、日本海側南部や太平洋側では気圧の谷の影響で雨の降った所が多かった。18日は気圧の谷やオホーツク海高気圧からの湿った気流の影響で太平洋側を中心に曇った所が多く、雨の降った所もあったが、晴れた所もあった。19～20日は高気圧に覆われて広い範囲で晴れた。

下旬：21日は高気圧に覆われて広い範囲で晴れた。22日は低気圧が通過して全道的に雨が降った。日降水量は福島町千軒で103.0mmなど。23日ははじめ気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、次第に高気圧の張り出しの中となつて広い範囲で晴れた。24日は前線を伴った低気圧の影響で全道的に雨が降り、大雨となった所もあった。日降水量は雄武で81.0mmなど。25日は前線を伴った低気圧が通過して広い範囲で雨が降ったが、次第に気圧の尾根の中となつて全道的に晴れた。26日は気圧の尾根の中となつて概ね晴れたが、気圧の谷の通過により大気の状態が不安定となつて日本海側やオホーツク海側で雨が降った。27日は高気圧の張り出しの中となつて全道的に晴れたが、日本海側では雨の降った所もあった。28日は次第に前線が接近して全道的に曇って、雨の降った所もあった。29日は寒冷前線が通過して全道的に雨が降った。30日は気圧の尾根の中となつて晴れた所が多かったが、気圧の谷が接近して日本海側では雨の降った所もあった。31日ははじめ気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、次第に高気圧の張り出しの中となつて日本海側を中心に晴れた。

気候表

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道 22 地点平均	-0.9	並	67	少	87	少
日本海側 10 地点平均	-0.8	並	80	並	105	並
オホーツク海側 4 地点平均	-1.0	並	81	並	65	か少
太平洋側 8 地点平均	-0.9	低	44	か少	77	少

(注)階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の 3 段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010 年の 30 年間)における各階級の出現率が 1:1:1 となるように決めています。なお、平年値作成期間内の上位、下位 10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」「か→かなり」で表しています。

Ⅱ. 病虫害発生概況

A. 水稻

1. いもち病(葉いもち) 発生量 やや多

予察田の「きらら 397」における葉いもちの発生量は、岩見沢市、北斗市では平年に比べ多く、比布町では平年並であった。

8 月 3 半旬の巡回調査では、上川地方の 1 地点で発生が認められている。

予察田における水稻の葉いもち発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	31.0	11.5	31.0	14.1	32.0	16.3	6
	ななつぼし	41.0	29.0	41.0	31.6	46.0	37.6	6
比布町	きらら397	31.0	34.3	37.0	36.1	34.0	41.2	10
	ななつぼし	30.0	—	48.0	—	43.0	—	—
北斗市	きらら397	35.0	13.3	35.0	14.5	35.0	15.3	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)比布町の「ななつぼし」は平年値なし

一般田における水稻の葉いもち巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			8月3半旬					8月3半旬	
			本年	昨年				本年	昨年
空知	本所	5	0	0	渡島	本所	3	0	0
	南東部	2	0	0	檜山	本所	2	0	0
	南西部	3	0	0		北部	2	0	0
	中空知	4	0	0	上川	本所	8	0.16	0
	北空知	7	0	0		富良野	2	0	0
石狩	本所	5	0	0		大雪	4	0	0
	北部	7	0	0		士別	2	0	0
後志	本所	4	0	0		名寄	3	0	0
胆振	東胆振	4	0	0	留萌	本所	3	0	0
日高	西部	3	0	0		南留萌	3	0	0

いもち病（穂いもち・節いもち） 発生期 早 発生量 やや多

予察田の「きらら397」における枝梗いもちの初発期は、北斗市では平年より早く、比布町では平年よりやや早く、岩見沢市では平年並だった。首いもちの初発期は、比布町では平年より早く、岩見沢市、北斗市では平年よりやや早かった。節いもちの初発期は、岩見沢市、比布町では平年より早く、北斗市では平年よりやや早かった。

穂いもちの発生量について、岩見沢市の「きらら397」では枝梗いもちが平年より多かったが、首いもちが平年よりやや少なかった。岩見沢市の「ななつぼし」では枝梗いもちが平年より多かったが、首いもちが平年並であった。比布町では枝梗いもち、首いもちともに平年よりやや少なかった。北斗市では枝梗いもち、首いもちともに平年より多かった。節いもちの発生量は、岩見沢市の「きらら397」では平年並で、「ななつぼし」では平年より多かった。比布町では平年並で北斗市では平年よりやや多かった。

8月6半旬の巡回調査結果では、上川地方の1地点で穂いもちの発生が認められた。

予察田における水稻の穂いもちと節いもちの初発期

地点	品種名	穂いもち				節いもち		平年数
		枝梗いもち		首いもち		本年	平年	
		本年	平年	本年	平年			
岩見沢市	きらら397	8月13日	8月15日	8月14日	8月18日	8月15日	8月23日	6
	ななつぼし	8月8日	8月15日	8月12日	8月18日	8月8日	8月19日	6
比布町	きらら397	8月2日	8月7日	8月5日	8月11日	8月5日	8月14日	10
	ななつぼし	8月2日	－	8月5日	－	8月5日	－	－
北斗市	きらら397	8月8日	8月14日	8月14日	8月18日	8月21日	8月25日	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

予察田における水稻の穂いもちと節いもちの発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	穂いもち				節いもち		平年数
		発病枝梗率(%)		発病首率(%)		発病茎率(%)		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	60.4	15.7	6.6	10.5	5.8	7.8	6
	ななつぼし	58.7	20.1	29.8	31.1	31.2	16.2	6
比布町	きらら397	13.7	27.5	6.8	28.1	7.9	6.6	10
	ななつぼし	11.5	—	2.7	—	6.2	—	—
北斗市	きらら397	52.8	11.4	39.2	10.4	11.6	4.8	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)比布町の「ななつぼし」は平年値なし

一般田における水稻の穂いもち巡回調査結果

普及センター		地点数	被害利率(%)	
			8月6半旬	
			本年	昨年
空知	本所	5	0	0
	南東部	2	0	0
	南西部	3	0	0
	中空知	4	0	0
	北空知	7	0	0
石狩	本所	5	0	0
	北部	7	0	0
後志	本所	4	0	0
胆振	東胆振	4	0	0
日高	西部	3	0	0

普及センター		地点数	被害利率(%)	
			8月6半旬	
			本年	昨年
渡島	本所	3	0	0
檜山	本所	2	0	0
	北部	2	0	0
上川	本所	8	0.03	0
	富良野	2	0	0
	大雪	4	0	0
	士別	2	0	0
	名寄	3	0	0
留萌	本所	3	0	0
	南留萌	3	0	0

2. 紋枯病 発生期 早 発生量 やや多

予察田における初発期は、岩見沢市および北斗市ともに平年より早かった。発生量は、岩見沢市では平年よりやや多く、北斗市では平年並だった。

予察田における水稻の紋枯病発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	初発期		発病株率(%)		発病茎率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	8月1日	8月17日	56.0	48.3	20.6	10.7	21.0	13.8	6
北斗市	きらら397	7月21日	8月8日	28.0	34.3	22.8	14.8	15.0	15.0	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

3. 葉しょう褐変病 発生量 並

岩見沢市の予察田における発生量は、平年並であった。

予察田における水稻の葉しょう褐変病発生状況

地点	品種名	調査時期	発病株率(%)		発病茎率(%)		発病度		平年数
			本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	8月2半旬	36.0	38.0	1.8	3.6	9.0	12.3	6
比布町	きらら397	8月2半旬	0	—	0	—	0	—	—

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)比布町の「きらら397」は平年値なし

4. ウンカ類 発生量 やや少

ヒメトビウカの予察灯による誘殺数は、長沼町および北斗市では平年より少なく、比布町では平年よりやや少なかった。予察田におけるすくい取り頭数は、長沼町では平年並、比布町では平年より少なく、北斗市では平年よりやや少なかった。

セジロウカの予察灯による誘殺数は、いずれの地点も平年より少なかった。予察田におけるすくい取り頭数は、いずれの地点も平年より少なかった。

巡回調査(8月3半旬、水田すくい取り)によると、上川地方の1地点で150頭の捕獲があった他は目立った発生は認められなかった。

ヒメトビウカ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り頭数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り頭数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	45	229.5	5	356.4	7	5.5	10.0	7.0	20.0	132.3	5.0	6.8
2半旬	12	198.2	0	532.9	0	5.3	2.5	12.3	40.0	72.0	2.5	13.3
3半旬	14	266.6	17	395.7	3	6.1	17.5	41.2	40.0	75.8	5.0	9.5
4半旬	3	187.2	146	213.4	4	29.7	15.0	37.9	65.0	127.4	15.0	13.3
5半旬	44	301.1	1503	920.4	20	11.4	51.3	135.5	10.0	671.1	12.5	24.5
6半旬	14	378.7	25	2241.0	7	311.3	172.0	181.2	390.0	1033.1	35.0	53.8
平年数	10		10		10		5		10		10	

セジロウカ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り頭数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り頭数 (20 回振り×5 日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8 月 1 半旬	1	5.4	0	9.0	0	35.5	0	9.3	0	0.3	0	8.6
2 半旬	0	30.7	0	45.0	0	69.0	0	1.8	0	2.8	0	15.8
3 半旬	0	15.0	0	40.2	6	102.8	0	2.5	0	11.9	2.5	36.0
4 半旬	0	40.2	0	21.9	1	74.9	0	2.9	0	5.4	0	22.0
5 半旬	2	20.7	4	55.0	67	246.1	2.5	4.3	0	10.6	5.0	18.3
6 半旬	3	6.4	0	33.0	6	11.4	2.5	9.0	0	17.1	17.5	24.0
平年数	10		10		10		5		10		10	

巡回調査によるヒメトビウンカ成幼虫の 20 回振り水田すくい取り頭数

普及 センター		地点数	8 月 3 半旬		普及 センター		地点数	8 月 3 半旬	
			本年	昨年				本年	昨年
空知	本所	5	7.6	0	渡島	本所	3	0	1.3
	南東部	2	0	0		本所	2	0	12.5
	南西部	3	0.3	0.7		北部	2	1.3	0
	中空知	4	0	0.3	上川	本所	8	2.8	11.3
	北空知	7	0.9	11.3		富良野	2	15.0	0
石狩	本所	5	0.2	0.2		大雪	4	40.3	5.3
	北部	7	0	0		士別	2	0	5.5
後志	本所	4	3.3	5.0	留萌	名寄	3	0	0
胆振	東胆振	4	0	0		本所	3	0	2.3
日高	西部	3	0	1.3		南留萌	3	0	0

5. アカヒゲホソミドリカスミカメ 発生量 やや少

予察灯による誘殺数は、長沼町では平年よりやや少なく、比布町では平年並、北斗市では平年より少なかった。予察田におけるすくい取り頭数は、長沼町では平年並、比布町では平年よりやや多く、北斗市では平年よりやや少なかった。

8 月 3 半旬の巡回調査によると、水田すくい取りにおいて発生モニタリングによる追加散布の基準である捕獲頭数 2 頭以上（きらら 397）となる水田は、全調査地点のうち石狩地方の 3 地点に止まった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り頭数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り頭数 (20 回振り×5 日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8 月 1 半旬	91	675.2	6	27.3	9	93.4	2.5	0.8	5.0	0.3	0	3.0
2 半旬	127	483.5	1	34.9	3	52.1	0	2.6	0	0	0	1.8
3 半旬	82	396.8	6	33.3	4	45.8	17.5	2.4	0	0	0	0.8
4 半旬	11	247.1	11	7.9	3	32.6	2.5	3.4	0	0	2.5	0.3
5 半旬	222	165.2	95	7.9	34	66.9	8.8	6.8	0	0	0	2.0
6 半旬	39	138.1	11	17.6	12	39.5	5.0	6.1	10.0	0.4	0	0.8
平年数	10		10		10		5		10		10	

巡回調査によるアカヒゲホソミドリカスミカメ成幼虫の20回振り水田すくい取り頭数

普及 センター		地点数	8月3半旬	
			本年	昨年
空知	本所	5	0.2	0
	南東部	2	0	0
	南西部	3	0.7	0
	中空知	4	0	0
	北空知	7	0	0
石狩	本所	5	0	0.4
	北部	7	1.3	0.5
後志	本所	4	0	0.3
胆振	東胆振	4	0	0
日高	西部	3	0	0

普及 センター		地点数	8月3半旬	
			本年	昨年
渡島	本所	3	0	0
檜山	本所	2	0	0
	北部	2	0	0
上川	本所	8	0	0
	富良野	2	0	0
	大雪	4	0	0
	士別	2	0	0.5
	名寄	3	0	0
留萌	本所	3	0	0.3
	南留萌	3	0.3	0.3

6. フタオビコヤガ 発生量 やや少

予察灯による誘殺数は、いずれの地点も平年より少なかった。第2～3回幼虫による予察田の被害葉率は、長沼町で平年よりやや低く、比布町では平年より低く、北斗市で平年よりやや高かった。

フタオビコヤガ成虫の予察灯誘殺数および予察田における被害状況

月・半旬	予察灯誘殺数						被害葉率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	35	199.9	88	496.7	0	60.8	6.1	5.1	0.4	7.4	0.4	0.1
2半旬	23	339.3	6	293.6	0	33.0	4.6	5.5	0.7	8.4	0.5	0.1
3半旬	12	314.4	50	222.4	0	20.6	3.7	5.7	1.2	9.9	0.5	0.1
4半旬	4	56.5	16	57.0	0	4.8	4.1	5.9	2.0	12.5	0.5	0.1
5半旬	1	17.7	9	15.7	0	3.7	3.3	7.7	2.9	15.0	0.5	0.3
6半旬	1	12.9	0	20.0	0	3.4	4.3	7.0	3.9	17.0	0.7	0.3
平年数	10		10		10		5		10		10	

B. とうもろこし

1. アワノメイガ 発生量 少

北斗市におけるフェロモントラップによる誘殺数は平年より少なかった。

フェロモントラップによるアワノメイガ雄成虫の誘殺数

月・半旬	北斗市	
	本年	平年
8月1半旬	0	0.3
2半旬	2	1.4
3半旬	0	1.9
4半旬	0	2.8
5半旬	0	12.5
6半旬	1	7.8

注) 平年数は10年

C. 豆類

1. べと病（大豆） 発生量 少

長沼町の予察ほにおける発生量は、平年より少なかった。

予察ほにおける大豆のべと病発生状況

地点	品 種 名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	2.5	29.4	2.5	32.0	5.0	33.9	10

2. わい化病（大豆） 発生量 やや少

予察ほの大豆におけるわい化病の発病株率は、長沼町、訓子府町ともに平年よりやや低かった。

予察ほにおける大豆のわい化病の発生状況（8月6半旬）

地点	品種名	発病株率(%)		平年数
		本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	39.0	46.1	10
訓子府町	トヨコマチ	28.0	40.9	10

3. 菌核病（菜豆） 発生量 少

芽室町の予察ほにおける菜豆の菌核病の発生量は、平年より少なかった。

予察ほにおける菜豆の菌核病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	1.9	13.0	4.5	17.2	2.5	23.6	10

4. 灰色かび病（小豆・菜豆） 発生量 並

長沼町の予察ほ（小豆）における灰色かび病の発生量は、平年並であった。芽室町の予察ほ（菜豆）における灰色かび病の発生量は、平年よりやや少なかった。

8月3半旬の巡回調査結果では、一般ほにおける小豆の灰色かび病の発病は檜山および上川の3地点において多く認められた。

予察ほにおける小豆の灰色かび病発生状況

地点	品 種 名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	しゅまり	2.5	2.5	4.5	4.3	6.0	4.7	10

予察ほにおける菜豆の灰色かび病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	2.0	17.2	18.2	20.2	13.5	25.8	10

一般ほにおける小豆の灰色かび病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			8月3半旬					8月3半旬	
			本年	昨年				本年	昨年
空知	本所	2	0	0	上川	富良野	1	0	0
石狩	本所	3	3.0	0.7		大雪	3	0	0
後志	本所	2	0	0		士別	2	40.0	0
胆振	本所	3	0	0		名寄	1	0	0
	東胆振	3	3.3	0	留萌	本所	2	0	0
檜山	本所	2	45.0	0	網走	本所	2	5.0	0
	北部	1	0	0		網走	2	2.5	0
						美幌	3	0	0
					十勝	本所	3	1.7	0
						東部	6	0	0
						東北部	4	7.0	0
						北部	3	1.3	0
						西部	3	1.3	0

5. マメシンクイガ 発生期 やや遅 発生量 並

フェロモントラップによる成虫の誘殺数は、長沼町および比布町で平年並、北斗市、芽室町および訓子府町で平年より多かった。

予察ほの大豆における産卵初発期は、長沼町では平年より遅く、芽室町では平年並であった。産卵数は、長沼町では平年並、芽室町では平年よりやや少なかった。

フェロモントラップによるマメシンクイガ成虫の誘殺数と初誘殺日

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	9	23.9	33	52.2	2	1.3	20	10.1	0	2.5
2半旬	17	34.1	38	46.3	6	10.8	25	25.3	2	2.3
3半旬	30	39.3	16	18.0	2	13.0	15	22.3	6	7.8
4半旬	22	25.8	29	1.7	47	13.0	50	13.8	18.0	6.6
5半旬	14	19.9	8	2.0	30	13.1	31	7.0	14.7	3.2
6半旬	5	3.9	0	1.0	10	9.5	5	2.4	10	2.1
初誘殺日	7月25日	7月25日	7月22日	7月16日	8月3日	8月7日	7月17日	7月27日	8月6日	8月6日
平年数	8		6		7		8		6	

予察ほの大豆におけるマメシクイガの産卵状況

月・半旬	長沼町		芽室町	
	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	5.3	0	2.0
2半旬	0	19.2	2	10.9
3半旬	0	27.3	11	22.9
4半旬	56	29.0	18	32.1
5半旬	21	27.4	15	15.5
6半旬	23	7.9	5	3.5
初発期	8.IV	8.II	8.II	8.II
平年数	9		10	

注1)10株あたりの産卵数

注2)品種は「トヨムスメ」

6. 食葉性鱗翅目幼虫（大豆・小豆） 発生量 やや少

予察ほ大豆の被害程度は、長沼町では平年並、訓子府町では平年よりやや低かった。小豆の被害程度は、長沼町および訓子府町で平年よりやや低かった。

予察ほにおける大豆および小豆の食葉性鱗翅目幼虫の被害程度

月・半旬	大豆				小豆			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	30	44.4	25	28.7	13	21.9	4	14.9
2半旬	35	49.6	25	29.7	13	22.4	8	17.6
3半旬	45	50.0	25	30.1	14	23.8	12	18.4
4半旬	43	52.0	25	29.7	14	23.7	15	20.1
5半旬	45	53.2	25	29.4	20	24.1	19	21.0
6半旬	45	53.9	25	31.4	20	24.1	21	21.7
平年数	10		9		10		9	

D. ばれいしょ

1. 疫病 発生量 やや多

予察ほの「とうや」における疫病の発生量は、北斗市では平年より少なかったが、芽室町では平年並、訓子府町では平年よりやや多く、長沼町では平年より多かった。

予察ほにおけるばれいしょの疫病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月1半旬		8月3半旬		8月5半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	とうや	30.5	55.9	100	58.8	100	58.8	9
	スノーマーチ	41.0	49.5	99.0	56.4	100	63.6	8
北斗市	とうや	12.0	67.5	18.5	67.5	－	－	9
芽室町	とうや	100	88.9	100	88.9	100	88.9	10
	男爵薯	100	90.0	100	90.0	100	90.0	9
	スノーマーチ	100	87.5	100	87.5	100	87.5	10
	紅丸	100	90.0	100	90.0	100	90.0	9
訓子府町	とうや	100	75.8	100	81.4	100	81.4	9
	スノーマーチ	80.0	61.5	100	74.1	100	79.3	8

注)一:茎葉の黄化、枯凋により調査不能

2. アブラムシ類 発生量 やや多

予察ほのばれいしょにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生量は、長沼町では平年よりやや多く、芽室町では平年より多く、訓子府町では平年並であった。ワタアブラムシの発生量は、長沼町では平年よりやや多く、芽室町では平年より少なく、訓子府町では平年より多かった。モモアカアブラムシは、いずれの地点も発生が認められなかった。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ジャガイモヒゲナガアブラムシ						ワタアブラムシ					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	2.5	0	6.0	1.1	0	1.7	10.5	1.5	1.0	0.7	39.0	29.5
2半旬	0	0	0	0.6	0	0.9	3.0	0.1	0	1.1	55.5	25.9
3半旬	0	0	0	0	1.0	0.2	3.0	1.2	0	5.1	128.0	38.6
4半旬	0	0	0	0	0.5	0.2	0	0.9	0	0.3	11.0	42.7
平年数	10		10		10		10		10		10	

注 1) 20 株各 2 複葉、合計 40 複葉を調査。虫数は 10 株 20 複葉あたり換算虫数

注 2) 品種は「スノーマーチ」

E. てんさい

1. 褐斑病 発生量 やや少

<7月7日付け注意報第3号>

予察ほにおける発生量は、長沼町で平年並、芽室町および訓子府町では平年よりやや少なかった。

巡回調査の結果では、全道的に発生は認められたが、発病株率が 50%を超えたほ場は、全調査地点中 4 地点に止まった。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	ライエン(HT-39)	23.6	－	40.4	－	51.2	－	－
	あまいぶき	21.6	19.3	40.0	37.3	54.4	58.0	7
芽室町	リッカ	15.2	－	21.2	－	24.4	－	－
	あまいぶき	24.8	26.8	29.2	36.9	41.6	55.7	5
	スタウト	18.0	16.0	21.6	23.7	28.0	33.0	8
訓子府町	リッカ	22.0	19.9	27.6	35.0	41.6	54.3	8

注) —: 平年値なし

一般ほにおけるてんさいの褐斑病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)			
			8月3半旬		8月6半旬	
			本年	昨年	本年	昨年
空知	南東部	1	4.0	0	4.0	5.0
石狩	本所	3	0.7	4.7	19.0	14.7
後志	本所	3	0	0	2.0	1.7
胆振	本所	4	0.8	7.5	0.5	14.5
	東胆振	3	2.3	3.7	7.5	7.7
上川	富良野	3	0	0	0.7	0.7
	大雪	3	0	0.7	1.0	1.7
	士別	1	1.0	2.0	0	2.3
	名寄	2	0	0	0	0
網走	本所	10	1.6	0.2	4.6	24.3
	清里	3	0.7	0.3	3.0	3.3
	網走	2	0	0	3.0	0.5
	美幌	5	2.8	1.2	5.8	5.4
	遠軽	9	13.0	0.3	15.7	29.8
十勝	本所	5	5.2	4.0	5.0	33.0
	東部	6	1.7	3.3	25.7	5.7
	東北部	4	40.3	0.3	43.3	62.0
	北部	3	0.3	0	0.3	11.3
	西部	3	0.3	1.3	5.0	9.3
	南部	3	0	2.3	1.7	3.7

2. ヨトウガ(第2回) 発生期 やや早 発生量 並

予察灯による第2回成虫の初発期は、長沼町、比布町および北斗市で平年より早く、芽室町では平年並、訓子府町では平年より遅かった。誘殺数は、長沼町では平年並、比布町および北斗市で平年より多く、芽室町では平年よりやや少なく、訓子府町では平年より少なかった。

予察ほにおける産卵初発期は、長沼町では平年よりやや遅く、芽室町では平年並、訓子府町では平年よりやや早かった。食害程度は、長沼町および芽室町で平年並、訓子府町では平年よりやや低かった。

8月6半旬の巡回調査において、被害株率が50%以上となったほ場は認められなかった。

ヨトウガ成虫の予察灯誘殺数と第2回初誘殺日

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	1	0.4	1	0.3	1	0.3	0	0	0	0.2
2半旬	0	2.0	1	0.2	2	0.2	0	0.2	0	1.1
3半旬	3	2.7	7	0.4	1	0.1	1	0.8	0	1.4
4半旬	2	2.9	8	0.3	0	0.5	0	1.4	1	1.0
5半旬	1	1.8	7	0	2	0.1	1	1.7	0	1.4
6半旬	0	1.7	4	0.1	0	0.1	0	0.9	0	1.3
初誘殺日	7月29日	8月7日	7月31日	8月8日	8月1日	8月8日	8月12日	8月14日	8月19日	8月13日
平年数	10		9		10		10		10	

予察ほにおけるヨトウガの産卵状況および食害程度

月・半旬	卵塊数(50 株あたり)						食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8 月 1 半旬	0	0.6	0	0.4	0	0	66	62.9	33	38.2	17	35.2
2 半旬	0	2.4	0	0.9	0.5	0.3	65	60.5	32	38.8	19	36.9
3 半旬	3	3.8	1	1.7	0	0.4	70	59.6	34	38.1	21	35.5
4 半旬	5	3.8	2	2.2	0	0.6	63	55.0	35	38.1	21	36.3
5 半旬	5	3.6	3	2.0	0	0.3	57	52.9	35	38.2	24	37.7
6 半旬	4	1.6	2	1.2	0.5	0.8	58	54.9	32	38.5	27	39.0
初発期	8.Ⅲ	8.Ⅱ	8.Ⅲ	8.Ⅲ	8.Ⅱ	8.Ⅲ						
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率(%)

普及 センター		地点 数	8 月 6 半旬	
			本年	昨年
空知	南東部	1	4.0	10.0
石狩	本所	3	10.0	10.3
後志	本所	3	4.0	4.7
胆振	本所	4	4.5	4.3
	東胆振	3	1.0	7.7
上川	富良野	3	5.7	17.7
	大雪	3	11.3	21.7
	士別	1	5.0	0.5
	名寄	2	0	2.0

被害株率:50 株調査

普及 センター		地点 数	8 月 6 半旬	
			本年	昨年
網走	本所	10	7.1	19.5
	清里	3	4.0	2.7
	網走	2	0	25.0
	美幌	5	0	5.8
	遠軽	9	10.8	11.4
十勝	本所	4	1.2	10.5
	東部	6	0.2	5.7
	東北部	4	7.9	15.0
	北部	3	0	0.7
	西部	3	4.0	0
	南部	3	0.7	5.3

被害株率:50 株調査

F. あぶらな科野菜

1. 軟腐病（だいこん） 発生量 やや少

長沼町の予察ほにおけるだいこんの軟腐病の発生量は、平年よりやや少なかった。

予察ほにおけるだいこんの軟腐病発生状況

地点	作物名	品種名	作型	発病株率(%)						平年数
				8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
				本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	だいこん	耐病総太り	初夏播き	0	3.5	1.7	8.1	4.7	8.4	10
		耐病総太り	夏播き	－	－	0	0	0	0.6	10

注)一:調査時期外

2. モンシロチョウ 発生量 やや多

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町では平年よりやや少なく、北斗市では平年より多かった。
8月3半旬の巡回調査において、モンシロチョウが優占種である地点も認められた。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウの発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	1.6	106	32.0
2半旬	2	13.6	261	25.9
3半旬	17	19.1	230	54.5
4半旬	14	23.5	32	29.0
5半旬	10	20.9	35	16.5
6半旬	12	17.8	13	6.1
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数

3. コナガ 発生量 やや多

<7月27日付け注意報第4号>

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、いずれの地点においても平年よりやや多かった。
予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年並、北斗市では平年より多かった。
8月3半旬の巡回調査において、コナガが優占種である地点が多かった。

フェロモントラップによるコナガ成虫の誘殺数

月・半旬	長沼町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	95	87.8	157	51.4	1	2.3	2	2.1
2半旬	71	82.4	100	22.9	8	2.1	0	1.8
3半旬	65	66.5	17	26.4	6	1.3	2	1.1
4半旬	79	54.3	26	26.1	2	1.4	7	1.0
5半旬	84	26.7	10	14.9	2	0.8	9	0.8
6半旬	100	31.0	10	9.6	2	0.9	1	1.3
平年数	10		10		10		10	

注) 設置場所はあぶらな科野菜ほ場近辺、芽室町はあぶらな科野菜以外のほ場近辺、訓子府町は雑草地

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	2	2.4	112	34.0
2半旬	18	6.1	162	17.2
3半旬	18	18.2	40	33.5
4半旬	11	21.3	2	4.6
5半旬	9	17.9	1	3.8
6半旬	9	9.5	4	7.7
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数

4. ヨトウガ (第2回) 発生量 並

予察ほのキャベツにおける卵塊数は、長沼町で平年よりやや少なく、北斗市では平年よりやや多かった。
予察灯による第2回成虫の誘殺頭数は、長沼町では平年並、北斗市では平年より多かった(てんさいの項参照)。
8月3半旬の巡回調査において、ヨトウガが優占する地点はなかった。

G. りんご

1. 黒星病 発生量 多

＜6月12日付け注意報第2号＞

予察園における発生量は、長沼町（無防除）の「昂林」では平年より多く、「つがる」では平年並で、余市町B（慣行防除）では平年より多かった。余市町C（慣行防除）でも発生が認められた。

巡回調査の報告によると、一般園においても発生が認められた。

予察園におけるりんごの黒星病発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	病葉率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	昂林	82.9	40.5	37.8	20.3	8
	つがる	39.4	35.6	9.6	17.1	8
余市町B	つがる	17.5	0.3	－	－	10
余市町C	王林	4.6	－	－	－	－

注1) 長沼町は8月6半旬、余市町は8月第5週のデータ

注2) ー：調査対象外または平年値なし

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			8月3半旬	
			本年	昨年
後志	北後志	3	15.7	0.3
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	3	10.0	0
留萌	南留萌	1	9.5	0

2. 斑点落葉病 発生量 やや多

長沼町の予察園（無防除）の「王林」における発生量は、平年よりやや多かった。余市町の予察園（慣行防除）では発生が認められなかった。

巡回調査の報告によると、一般園における発生は、デリシャス系等の感受性品種を調査対象にしている渡島および留萌地方において発生が認められた。

予察園におけるりんごの斑点落葉病発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	病葉率(%)		平均病斑数(個/葉)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	王林(新梢)	9.8	3.8	0.1	0.1	7
	王林(徒長枝)	11.0	3.3	0.1	0.1	7
余市町C	王林(徒長枝)	0	－	－	－	－

注1) 長沼町は8月6半旬、余市町は8月5週目のデータ

注2) ー：調査対象外または平年値なし

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			8月3半旬	
			本年	昨年
後志	北後志	3	0	0
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	3	1.0	9.3
留萌	南留萌	1	22.4	2.8

3. ハマキムシ類 発生期 並 発生量 やや少

長沼町の予察園におけるフェロモントラップ初発期は、リンゴコカクモンハマキ（第2回）は8月21日（平年：8月12日）と平年より遅く、リンゴモンハマキ（第2回）は長沼町で8月10日（平年：8月9日）と平年並であった。

リンゴコカクモンハマキの誘殺数は、余市町Aでは平年並であったが、長沼町および余市町Bでは平年よりやや少なかった。リンゴモンハマキの誘殺数は、長沼町では平年並、余市町Aでは平年より少なく、余市町Bでは誘殺が認められなかった。幼虫による被害新梢率は、長沼町で11.0%（平年：2.2%）と平年より高かったが、余市町AおよびBでは被害が認められなかった。

一般園におけるフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの誘殺数は、札幌市および七飯町では平年並であったが、その他の地点では平年より少なかった。リンゴモンハマキの誘殺数は、伊達市および壮瞥町では平年並、七飯町では平年よりやや多く、岩見沢市および札幌市では平年よりやや少なかった。

予察園におけるフェロモントラップによるハマキムシ類の誘殺数

月・半旬	リンゴコカクモンハマキ						リンゴモンハマキ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.3	0	0.4	1.0	1.8	0	3.2	0	0.5	0	0.2
2半旬	0	1.4	1.1	1.4	2.0	3.7	7	5.6	0	0.4	0	0.4
3半旬	0	3.1	2.9	1.4	0	3.2	11	17.5	0	0	0	0.3
4半旬	2	1.8	0	1.4	1.0	3.9	46	29.3	0	0.1	0	0.2
5半旬	0	2.0	0	0.9	0	4.1	33	42.9	0	0.1	0	0.3
6半旬	1	0.7	1.0	1.8	0	3.0	64	39.3	0.3	0.4	0	0.4
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 余市町の予察園は慣行防除

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.2	0.6	0.2	0	0.3	0	0	0	0.4
2半旬	0	1.1	0.6	0.6	0	0.6	0	0.2	0.3	1.1
3半旬	0	1.7	2.1	1.5	0	1.0	0	0.6	0.7	0.9
4半旬	0.8	2.4	2.1	2.8	0	1.5	0	0.2	0	0.8
5半旬	0.2	1.4	1.7	3.4	0	2.1	0	0.0	1.0	1.1
6半旬	0	1.6	1.1	2.1	1.3	3.1	0.9	0.7	5.0	1.6
平年数	10		10		10		10		8	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均

一般園におけるリンゴモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.9	0.9	4.2	10.0	1.7	0	0.2	0	0.5
2半旬	0	0.5	0.6	1.7	5.5	1.3	0.4	1.4	0	0.9
3半旬	0	1.0	0	0.7	2.5	2.7	0.6	1.6	0	1.9
4半旬	0.4	2.6	1.2	1.5	5.8	9.3	0	0.9	3.3	3.5
5半旬	2.1	3.8	3.8	3.7	17.2	18.8	1.7	1.1	9.7	5.9
6半旬	3.0	6.8	4.0	13.7	45.0	30.8	3.4	2.0	31.0	10.1
平年数	10		9		10		10		8	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均

4. モモシンクイガ 発生量 並

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、余市町Bでは平年よりやや多かったが、長沼町および余市町Aでは平年よりやや少なかった。長沼町の予察園における産卵数は平年よりやや多かった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、旭川市で平年よりやや多く、岩見沢市、壮瞥町および七飯町では平年並、札幌市および伊達市では平年よりやや少なかった。

予察園におけるモモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺数、産卵数および被害果率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						100 果あたり 産卵数		被害果率(%)	
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		長沼町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8 月 1 半旬	53	149.3	42.3	71.6	35	56.4	92	147.9	100	93.7
2 半旬	54	51.4	29.3	58.5	14	43.8	30	90.7	100	98.7
3 半旬	19	31.4	26.4	56.5	79	36.9	14	43.0	100	99.1
4 半旬	4	20.8	8.8	44.2	38	35.2	113	49.2	100	99.9
5 半旬	6	21.0	5.9	24.4	84	22.4	168	52.0	100	100.0
6 半旬	3	22.3	3.3	23.5	100	31.9	91	51.8	100	100.0
平年数	10		10		10		10		10	

注) 余市町の予察園は慣行防除

一般園におけるモモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8 月 1 半旬	18.6	10.8	0.8	8.3	20.7	28.4	7.9	3.6	71.3	75.1	77.5	58.1
2 半旬	13.4	11.2	0.6	5.2	12.8	19.9	7.3	4.5	101.0	86.6	52.0	38.9
3 半旬	7.5	6.6	1.4	4.6	7.5	23.5	6.9	5.9	70.7	77.0	26.0	32.9
4 半旬	4.2	2.8	6.0	3.2	10.0	27.2	5.8	6.5	35.8	44.6	8.0	18.1
5 半旬	3.8	1.7	3.6	4.4	23.7	32.8	9.7	6.7	47.2	27.6	10.0	24.6
6 半旬	1.0	1.5	0	5.0	20.1	40.0	12.0	8.7	59.0	23.5	3.8	23.9
平年数	10		10		10		10		8		9	

注) 岩見沢市の値は 2 地点の平均

5. ハダニ類 発生量 少

予察園におけるハダニ類の発生量は、いずれの地点においても平年より少なかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8 月 1 半旬	1	1.0	0	3.0	0	0.6	0	0.4	0	3.0	0	0.2
2 半旬	0	1.2	0	1.0	0	2.4	0	4.4	0	1.0	0	4.9
3 半旬	0	1.9	0	0.8	0	0.8	0	1.3	0	0.8	0	10.0
4 半旬	0	1.5	-	0.6	-	4.3	0	0.4	-	0.6	-	35.0
5 半旬	0	2.6	0	0.8	0	6.8	0	2.8	0	0.8	0	5.8
6 半旬	0	2.6	0	0.2	0	1.6	0	1.6	0	0.2	0	5.2
平年数	10		10		10		10		10		10	

注 1) 30 葉あたりの寄生虫数

注 2) 余市町の予察園は慣行防除

注 3) -: 未調査

6. キンモンホソガ 発生量 やや少

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町および余市町Bでは平年並、余市町Aでは平年より少なかった。予察園における被害葉率は、長沼町では平年より低く、余市町AおよびBでは平年並であった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、札幌市および旭川市では平年並、伊達市および壮瞥町では平年よりやや少なく、岩見沢市および七飯町では平年より少なかった。

予察園におけるキンモンホソガの被害葉率およびフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						被害葉率(%)					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	3	23.8	146.8	261.8	774.0	206.0	4	7.5	1	0.4	1	0.1
2半旬	25	20.9	42.0	253.2	353.0	240.7	0	9.2	2	0.8	1	0.3
3半旬	27	20.4	84.3	488.9	342.5	642.3	3	15.4	2	0.5	1	0.2
4半旬	23	28.4	103.1	654.4	103.0	498.0	1	19.7	-	1.6	-	0.6
5半旬	14	38.5	75.2	281.4	117.8	297.7	5	22.9	2	0.7	1	0
6半旬	29	82.9	39.7	297.0	135.8	100.0	8	25.3	2	1.2	2	0.5
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1)余市町の予察園は慣行防除

注2)-:未調査

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	45.4	73.7	0	2.4	101.4	55.4	527.1	292.9	22.5	256.2	1.7	0.3
2半旬	21.6	95.9	0	2.2	40.6	69.4	246.9	349.7	28.8	486.3	7.0	2.0
3半旬	6.0	125.3	4.3	2.3	0	72.1	60.0	458.0	30.7	309.9	7.0	1.2
4半旬	11.7	138.4	6.5	2.4	2.5	57.7	30.8	676.3	0	201.8	2.0	0.8
5半旬	5.3	89.1	4.1	2.9	0.5	30.5	52.5	633.2	0	312.3	2.0	0.2
6半旬	8.0	151.8	1.1	5.6	0	26.9	58.7	393.3	0	293.0	2.0	1.0
平年数	10		10		10		10		8		6	

注)岩見沢市の値は2地点の平均

農薬の適切な保管管理と空容器等の適正な処分に努めましょう!!

■ 農薬の保管管理等に当たって

農作業も終盤となり農薬を使用する機会も少なくなりますが、使い残した農薬は適切に保管管理するとともに、空容器等は適正に処分するようにしてください。

- 1 農薬は乾燥した冷暗所に保管箱又は保管庫を設置し、施錠して保管してください。
- 2 農薬の誤用を防止するため、種類別に分類整理して保管してください。特に除草剤は、誤って使用すると薬害等の被害を招く恐れがあるので、他の農薬と明確に区分してください。
- 3 毒物又は劇物に該当する農薬は、毒物及び劇物取締法により容器や包装、保管場所への表示等が定められていますので、これを遵守してください。
また、消防法に基づく危険物に該当する農薬は、貯蔵及び取扱いの基準が定められているので、これを守ってください。
- 4 誤飲等を防ぐため、農薬は他の容器への移し替えや小分け、特に食品容器への移し替えは行わないようにしてください。
- 5 使用済みの農薬の空容器は、他の用途には絶対に使わないでください。
また、農薬の空容器及び残農薬の処分に当たっては、関係法令に基づき適正な処分に努めてください。
なお、農薬の空容器の処分に当たっては、容器内に農薬が残らないよう十分に除去してください。

農薬に関してのお問い合わせは

道庁農政部生産振興局技術普及課（TEL:011-231-4111(内線)27-838)

北海道病虫害防除所（TEL0123-89-2080）

または最寄りの総合振興局・振興局農務課にご照会ください。

登録情報や農薬取締法等については

農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)をご覧ください。